



平成 27 年 12 月 30 日
第 273 号
清野新聞社

十度目の花園 第95回

記念大会特集(進)

全国高校ラグビーフットボール大会は十二月二十七日(日)に東大阪花園ラグビー場で開幕しました。今年も95回の記念大会、母校遠軽高校も10回目の出場。節目の記念大会、母校の活躍ぶりをお届けします。

総本山金剛峯寺



級友高橋典雄君と高野山参拝(二六日)
二五日(金)高校のクラスメー

トでラグビー部の副主将だった高橋典雄君(元遠軽町役場勤務)が二年ぶりに来阪。前からの約束で二六日(土)高野山に参拝しました。

朝から快晴の好天気、朝八時に南海難波駅で待ち合わせし、「高野山・世界遺産きつぷ」を使って高野山に向う。橋本乗り換え約二時間で高野山到着。

まず総本山金剛峯寺を参拝。観光客も少なくゆつくりと参拝出来ました。続いて高野山のシンボル根本道場大伽藍にお参り。弘法大師が唐から伽藍建立の地を占う為に、お投げになった三鉢(さんご)が掛かったと伝えられる「三鉢の松」を見学。

高野山の入口に立つ「大門」前の気温計は2度4分を指していました。奥の院入口でお蕎麦の昼食を済ませ、歩いて高野山のハイライト「奥の院」へ向かいました。奥の院には「弘法大師御廟」があり最高の聖地です。大名家の墓所が参道沿いに並び、鬱蒼とした杉大木の並木を進むと奥の院です。ここでは脱帽、撮影禁止です。神聖な気持ちでゆつくりと参拝、母校の勝利を祈願し、満ち足りた気持ちで下山しました。

激励会と懇親会(二六日)

河原教育長と同期生



選手と父母・保護者の宿舎は上本町の「ホテルアウイーナ」です。午後七時から父母会主催の激励会が開催されました。山内監督から先発15の紹介があり、井上雄太主将が勝利の決意表明。続いて佐々木町長を初め主だったゲストの紹介と激励のスピーチ。我々OBの紹介もしていただきました。

会終了後は近鉄電車で行く本橋に出て、歩いて道頓堀界隈のナイトツアー。中国を中心とした中華圏からの観光客で賑わっていました。

午後八時半から戎橋の居酒屋で関係者の懇親会。前田町議会議長、遠軽商工会佐々木会頭ご夫妻、河原教育長、菅野同窓会長、佐渡遠軽ラグビー協会会長、吉村校長、町の広報担当高松さん他十一名が参加し明日の必勝を祈願。全員で焼酎の「一升」瓶を空け明日の「一勝」を願ってお開きとなりました。

開会式と対北条戦(二七日)

朝から気温も高く、晴れの絶好のラグビー日和。午前十時半からメインスタンドで開会式を見る。ワールドカップでの日本代表の活躍でラグビー人気が高まる中、初日の観客は前回より約四割多い一万八三〇四人でした。

遠軽後半4T

遠軽37-7北条 北緯44度付近に位置する遠軽は積雪でグラウンドが使えない中、ピニールハウスでのコンタクト練習で鍛え上げたFWが力を発揮した。パスゲームが得意な北条に対し、平均体重で15kg以上重いFW陣がプレッシャーをかける。まずは相手の持ち味を封じ、攻撃では「バックスが自由に動ける状況を作れた」(主将のドロップ井上)。

後半は4トライを重ねて突き放した。今月10日には学校を離れ、各地の高校と練習試合。実戦感覚を保ってきたことも奏功した。

◇第1日の結果◇

天理	90	山形南
深谷	18	尾道
仙台育英	39	荒尾徳志
新潟	76	津山工
遠軽	37	北条
和歌山工	30	魚津工
青森北	24	高鍋
伏見工	78	郡山北工
佐賀工	24	春日丘

遠軽から応援団



高橋主将が「ワールドカップでは日本代表が世界に感動を与えた。私たち選手も聖地・花園から感動と勇気を与えることを誓います」と選手宣誓した。校名ブラカードは昨年から自校から出すことになり佐竹MGが選手と一緒に入場行進、立派な入場行進でした。

午後一時四十五分第二グラウンドにて試合開始。当時の主将太田架君、高橋君の弟さんで1966年全国大会に初出場した高橋信行（剛と同じ学年）さん、関西在住の同期生、鈴木君、平田君、森本（旧姓真名子）さんも応援に駆けつけた。

前半から重量FWがプレッシャーをかけ主導権を握る。パスゲームが得意な北条の動きを封じ、前半を20対7で終了。

開会式、遠軽からのVIP



北条戦の遠軽大型FW



北条戦勝利の挨拶



茨城茗溪学園

後半も4Tを重ねて17対0でノーサイド、終わって見れば37対7の快勝でした。四国代表とは相性が良く、過去二勝（1977年6対3徳島貞光工、2012年70対7香川坂出工）も四国代表チームでした。

祝勝会（二七日）

夕方大阪道頓堀の中華料理店「敦煌」で祝勝会（会費制）が開催された。佐々木町長はじめ遠軽からのVIP全員、吉村校長、山内監督、OB等17名が参加し勝利を祝った。河原教育長のMCで町長の祝辞に続き、全員が自己紹介と近況を報告。河原教育長の音頭で、校



祝勝会全員集合

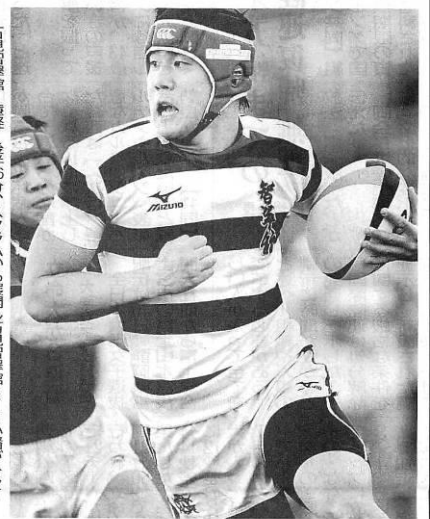
歌を斉唱しお開きとなった。後輩の活躍のお蔭で遠軽町の皆様、同期生に会うことが出来、楽しい一時を過ごせました。後輩に感謝の気持ち一杯で帰宅しました。

二回戦石見智翠館戦（三〇日）

朝からポカポカ陽気、天候にも恵まれて二万六九一五人の大入り。鈴木君（生駒市）、平田君（枚方市）と応援に行く。対戦相手の石見智翠館（旧江の川高校）は二五回連続出場の一校。メンバーの多くは関西出身のラグビー留学生。

第一グラウンド（メインスタジアム）で午後二時半キックオフ。FWは遠軽が押し気味、しかし脚力に勝る石見智翠館が遠軽を圧倒4

石見智翠館 脚力



石見智翠館 遠軽 後半16分 スクラムから展開し石見智翠館OB小嶋がトライ 須川撮影

石見智翠館71-3遠軽 FWのサイスと三谷の強さは、シードの石見智翠館よりも遠軽に分があった。しかし、鍛え抜かれた脚力に裏打ちされた攻撃力で、石見智翠館が圧倒。序盤から主将・岡山、李の面フランカーを中心にボールを持つと、勢いよく縦に走って大きくケイン。そこから、バックパスにボールを回す得意の展開プレイで得点を積み重ねた。岡山は一塊で攻められたと手心を口にする。次戦で当たる流経大柏には、前回大会で3点差の惜敗。岡山はしっかりと、体をぶつけた」と気持ちを高めていた。

7対3で前半を終了。後半最初の15分は得点を許さず、FWが頑張り残り1m、いや50cmでトライの場面もありましたが24対0でノーサイドのホイッスル。71対3の完敗でしたが、選手は最後まで諦めず頑張りました。

五十一年前一点差の敗北

私が三年の時、ラグビー部は母校開催の決勝で北見北斗高校に一点差で負け全国大会初出場を逃しました。通学バスの時間や農作業の手伝いでクラブ活動とは無縁の高校生活。一点差負けの悔しさには思いも及びませんでした。高橋君は「俺の人生の原点は北見北斗戦の一点差負けにある」と常々言っています。母校の活躍を見るにつけ一点差負けの重みが理解出来る遠高十度目の花園出場でした。